



How to use ロープレッサ?

—基礎と臨床の両面から考える新たな一滴—

皆様は緑内障治療の第二選択薬に何を求めますでしょうか？

現在、緑内障に対するエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は眼圧下降です。単剤で目標眼圧を達成できない場合は、薬剤の切替えあるいは作用機序の異なる薬剤の追加併用で目標眼圧の達成を目指す必要があります。

さらに、緑内障治療薬に対するアドヒアランスは、医師が考えるよりはるかに悪いことが報告されており、アドヒアランス不良は緑内障が進行する重要な要因の一つとされています。そのため、治療薬の選択においては有効性に加え、アドヒアランスが損なわれないことも重要な観点となります[緑内障診療ガイドライン(第5版)より]。

2026年6月にロープレッサ®点眼液0.02%は製造販売承認を取得しています。ロープレッサ®点眼液0.02%はROCK^{*1}阻害による線維柱帯流出路からの房水流出促進作用に加え、NET^{*2}阻害による房水産生抑制作用により眼圧を下降させると考えられます。また、ロープレッサ®点眼液0.02%は1回1滴、1日1回点眼の薬剤です。

本セミナーでは、基礎と臨床の両面からロープレッサ®点眼液0.02%の魅力について解説します。実臨床におけるロープレッサ®点眼液0.02%の使いどころについて皆様と一緒に考える場となれば幸いです。

※1: Rhoキナーゼ ※2: ノルエピネフリントランスポーター

座長



相原 一先生
(東京大学)

演者1

基礎研究からみえる
ロープレッサ®点眼液0.02%の魅力

本庄 恵先生 (東京大学)



演者2

臨床試験からみえる
ロープレッサ®点眼液0.02%の魅力

稲谷 大先生 (福井大学)

